

世界各地で人類史古層の土器作りが復活し、現代の作家による再現・創作が行われています。こうした動きは原点回帰と共に未来を志向し新しい創造を模索する文化潮流となっています。

アマゾン土器(マラジョーアラ土器・タバジョニカ土器)の作者メストレ・カルドーゾさんは、先住民が作った通りの技法や材料を長年かけて調査・研究し先史土器の復興を成し遂げた名人、すでに故人ですが他の追随を許しません。長年アマゾンの土器研究をしてこられた九州大学の古谷嘉章氏より昨年12点のカルドーゾ作の土器の寄贈を受けてこの企画が実現。企画展では再現復活したアマゾン(ブラジル)の土器—中南米土器—北米ホビ族の土器などに縄文土器を加えて一堂に展示し、世界的な視野で焼き物の原点にせまります。これらの土器は造形や世界観の表現が縄文土器と通底するものが垣間見えます。

アートの根源から
未来の創造へ!



〈猪風来美術館企画展〉

縄文土器やアマゾンの土器たちが語るもの

2023年2月1日(水)～5月28日(日)

【関連企画】座談会「土器たちが語るもの」

日時 2月23日(木・祝) 午後1時～3時 / 場所 企画展示室 申込不要(要観覧料)

古谷嘉章(九州大学名誉教授) 縄文、アマゾン先住民文化をよく知る人類学者の視点から
松本直子(岡山大学文明動態学研究所教授) 縄文土器の認知考古学、比較考古学の視点から
真世士マウ(岡山県立大学デザイン学部准教授) 古代アメリカ土器復元制作等、土器の作り手の視点から
猪風来(縄文造形家・猪風来美術館館長) 縄文土器・土偶復元制作、現代縄文アーティストの視点から

【出品作家】

アマゾン(ブラジル)土器 メストレ・カルドーゾ

古代アメリカ土器 真世士マウ

北米ホビ族土器 ドロシー

縄文土器・土偶

猪風来・村上原野・土田哲也・兵頭百華



猪風来美術館
新見市法曾陶芸館
〒719-2552
岡山県新見市法曾609
TEL/FAX 0867-75-2444
<http://www.ifurai.jp/>

日本唯一の現代縄文美術館。
縄文造形家・猪風来と村上原野
の縄文野焼き作品など代表作を
200点以上を常設展示。
生命と魂のデザイン
～縄文スパイラルアートを
現在直下で展覧。

【開館時間】午前9:30～午後5:00
【休館日】月曜日(祝日は開館し翌日休館)
(冬期12月～2月は月・火曜日)
【観覧料】一般400円/高校生200円
【アクセス】新見ICから車で30分
JR井倉駅からタクシーで約15分